

岩手県野田村の支援・交流活動報告（２０１２年１１月３日）

-野田村総合文化祭、産業まつりの支援-

本日の活動は、野田村総合文化祭、産業祭りの支援でした。また、この一環として、野田村の子供たちの為に万華鏡づくりを行いました。

天気にも恵まれ、６時４０分に弘前大学正門前を出発。一番遅く乗り込んだのが私になってしまいました。定時（６時３０分）前にしっかり集合していた皆さんには申し訳ないことをしました。

弘前大学の学生、市民の方々を合わせて、総勢５２名。多数の方々にご参加頂きました。学生の多くは、弘前大学で開講されている「復興論」の履修者だった様です。

バスの中は補助席まで使った移動。ほぼ満席のバスでしたが、初めの自己紹介でも皆さんが活動を楽しみにしている事が感じられ、ありがたいことだと思いました。

通常通り、道の駅おりつめのオトデ館前で集合写真。参加者が多かった為、たいへん賑やかな集合写真となりました。



野田村に到着後は、すぐに体育館へ移動し、体育館の二階で万華鏡造の準備。今回は、子供たちの為に、トイレットペーパーの芯で万華鏡を作ります。初めにマットを敷いて、そのうえに机を並べます。参加者が多いので仕事もどんどん進みます。



準備が整ったところで、市民の方（蒔苗俊二さん）から万華鏡作りを教わります。構造は単純ですが、覗くととてもきれいに見えます。



準備をしている間にも、子供たちが集まってきます。女の子が多く集まってきたので、女子学生達に声をかけると、仲良く作業を開始。すぐに打ち解けてくれました。



男の子も集まってきたのですが、彼らには万華鏡よりも体を動かす遊びの方が向いている様子。ちょうど卓球台があったので、用意を整えます。腕に覚え

のある男子学生が真剣勝負。初めは1台だった卓球台が、最後には3台になりました。



工作は万華鏡だけでなく、竹とんぼ、紙飛行機、紙鉄砲を子供たちと制作。子供たちもたいへん喜んでいました。一部の学生さんは身体を張って男の子の相手。若い学生さんでないと出来ない交流です。





学生達は、今回の目的である、野田村総合文化祭、産業まつりの支援にも向かいます。支援と言っても、お手伝いをする訳ではなく、来客としての参加。会場には野田村の皆さんによるお店が並び、食欲おう盛な学生さんは美味しそうに食事を楽しんでいました。また、やまぶどうジュースの種類を当てる「ききやまぶどう」に人文学部の本川彩佳さんが出場し、見事に優勝したそうです。まさか学生さんが出場しているとは思わず、観戦していませんでした。写真に

収められず、たいへん残念です。





帰りのバスの中では、印象に残る言葉がたくさんありました。復興が進んでいる野田村に驚いた学生さんが多かった様です。また、子供達と楽しい思い出を作る事が出来た学生さんも多く、「明日来ないのって言われた。」「また来るよって言ってもさみしそう。」という感想がありました。

さらに、「来る事で貴重な存在になっている。」「これってボランティア？という疑問もあったけれど、居るだけで意味がある。」「子供達が楽しそう。満足。こんな支援もあるんだな。」という言葉から、様々な支援の形を感じ取ってもらえた様です。もちろん、震災の爪痕を実感しながら、「海岸線まで歩いた。もっと早い段階から取り組めば良かった。」「仮設の人はどうしているんだろう。」「展示の言葉に『思い出したく無い』というものがあった。」と、野田村の方々を思いやる感想もありました。



今回はお祭りの盛り上げ役という面もあり、これまでの支援活動とは違った意味合いがありましたが、様々なことを考える機会になった貴重な一日であったと思います。

文責 小谷田文彦